

## 令和7年度 林業普及週間現地情報 (6/9～6/15)

森林管理課

日本最西端の造林地

6月9日(月)

令和7年6月9日(月)、令和7年度造林事業予定箇所の事前現地確認のため、与那国町を訪れた。ここ与那国島は石垣島から127kmの距離に対し、隣接する台湾とは111kmの位置にある日本最西端の有人島であり、すなわち島内の現場は日本最西端の造林地となる。

与那国町は令和7年度は、林道満田原線沿いを中心に保育の下刈り7箇所、除伐1箇所、人工造林として1箇所を計画しており、町担当者の案内のもと計9箇所の現場確認を行った。近年は、育成複層林施業である樹下植栽を中心に植栽を行っており、樹種としては、平成30年以降はイスノキ・リュウキュウコクタン・テリハボク・シャリンバイの4種が植栽されている。下刈り予定地では、それらの目的樹種が十分活着していることが確認でき、また、天然のビロウや径20cm程度のフクギが点在しているのが印象的であった。除伐は平成20年度の樹下植栽箇所(イスノキ・イヌマキ)で計画されており、こちらも林内にいずれの樹種も十分残存しており、除伐によりさらに成長が促進されることが期待された。また、フクギ等の有用樹種は、除伐対象から除くことなど助言を行った。

今後の人工造林は、耕作放棄地での育成単層林整備として、工芸材として貴重な材であるリュウキュウコクタン等を中心に植栽を進めていく予定であり、三線の棹等として与那国島から材を供給できる日がくることを期待したい。



R5 樹下植栽(テリハボク)



除伐予定箇所(イスノキ・イヌマキ)

(報告者: 八重山農林水産振興センター 井口、砂川)